

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

イグサシンムシガの越冬調査結果(技術情報第18号)について(送付)  
八代地域で3月25日に実施したイグサシンムシガ越冬調査の結果及び防除対策を下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

発蛾最盛日は4月3日と予測される(平年より14日早い)。  
越冬世代(幼虫+蛹)の発生量は平年に比べて少ない。

1 調査結果の概要

- (1) 3月25日現在、越冬世代の蛹化率は同時期の平年より高く、越冬世代成虫の発蛾最盛日は、平年(4月17日)に比べ14日早い4月3日と予測される(表1)。
- (2) 幼虫及び蛹の密度は0.5頭/10m<sup>2</sup>(平年3.7頭/10m<sup>2</sup>)と平年比少であった(表2、図1)。

2 防除対策

- (1) 「長イ」を加害する第2世代幼虫の発生密度を抑えるため、4月に第1世代幼虫に対する防除を徹底する。
- (2) 防除適期は粒剤が発蛾最盛日、液剤及び粉剤は発蛾最盛日7日後を目安にする。なお、気温の変動によっては羽化がばらつくので、発蛾最盛日から7日間隔で2~3回の防除を行う。
- (3) 発蛾最盛日が平年より早まることが予想されるため、防除のタイミングを逃さないように早めに防除の準備を行う。
- (4) 予測される発蛾最盛日は、ほ場によっては差が生じるので、ほ場内の発生状況をよく観察するとともに、病害虫防除所から提供される予察灯での誘殺情報に注意して防除時期を判断する。

※今後のイグサシンムシガに関する情報(発蛾最盛日予測、予察灯データ)については、病害虫防除所ホームページ(<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto>)に随時掲載します。

表1 越冬世代の蛹化率および発蛾最盛日

年次	調査日	蛹化率(%)	発蛾最盛日予測(実測日)
本年	3月25日	66.7	4月3日
前年	3月25日	54.2	4月9日(4月8日)
平年	3月26日	24.1	4月17日(4月15日)

注) 蛹化率: 調査区外の幼虫、蛹数も含めて算出

予測式: 調査日の蛹化率と過去10年間の「調査日の蛹化率係数(傾き)」と「調査日から発蛾最盛日までの日数係数(切片)」を用いた予測式

発蛾最盛日 = 調査日の蛹化率(%) × (-0.269953107) + (26.28415628) + 調査日 - 31日

実測日: 予察灯(八代市)で4月に誘殺のピークが見られた日

表2 イグサシンムシガ越冬調査結果（調査日：令和3年3月25日）

No.	市町村名	地点名	調査株数	被害茎数	幼虫数	蛹数	合計	頭数/10m <sup>2</sup> (幼虫+蛹)	茎数/株
1	氷川町	中島	100	2	0	1	1	2.8	89.0
2		鹿野	100	1	0	0	0	0.0	68.0
3		鹿島	100	0	0	0	0	0.0	105.0
4	八代市	両出	100	0	1	0	1	2.8	67.0
5		鏡村	100	1	0	0	0	0.0	76.0
6		北新地	100	1	0	0	0	0.0	119.0
7		古閑出	100	1	0	0	0	0.0	79.0
8		太牟田	100	0	0	0	0	0.0	67.0
9		吉王丸	100	0	0	0	0	0.0	100.0
10		松高	100	2	0	0	0	0.0	129.0
11		三江湖	100	4	0	0	0	0.0	69.0
12		日奈久	100	0	0	0	0	0.0	74.0
計			1,200	12	1	1	2	0.5	86.8
平年			2,070	62	20	7	27	3.7	

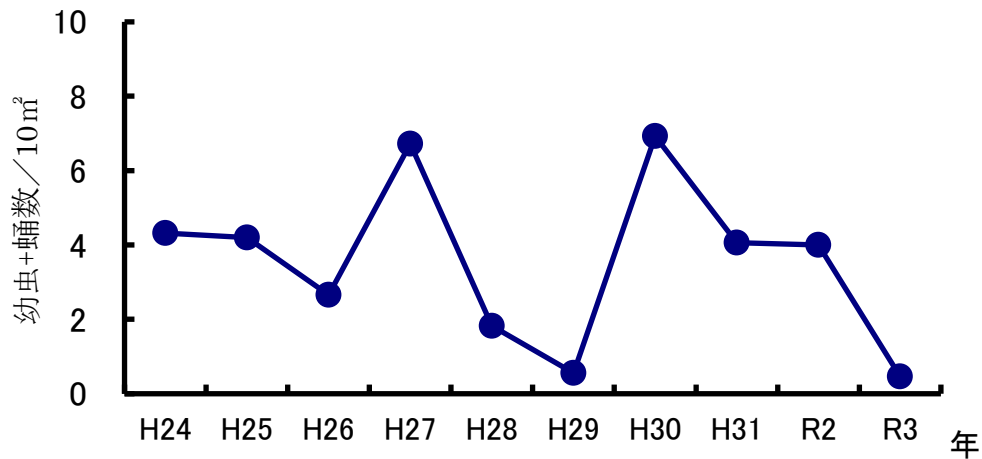


図1 イグサシンムシガの越冬世代幼虫・蛹密度の年次推移（八代地域）

問い合わせ先  
 熊本県病害虫防除所  
 (生産環境研究所 病害虫研究室)  
 担当：作本  
 TEL: 096-248-6490